

【 津 久 見 市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査平均正答率一覧

	小学校6年生				中学校3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
津久見市	77.0	58.0	84.0	48.0	78.0	70.0	64.0	44.0
大分県(公立)	76.0	58.0	81.0	46.0	79.0	73.0	64.0	47.0
全国(公立)	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1

小学校：国語

1 調査結果の分析

小学校：国語A

- ・全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・領域別では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、観点別では「言語についての知識・理

小学校：国語B

- ・全国の平均正答率を上回っている。
- ・領域別、観点別ともに「話すこと・聞くこと」において、全国、大分県の平均正答率を下回っている。特に、「話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える」問題については、全国値に比べ10P近く下回っているだけでなく、無解答率も全国に比べ高い。
- ・「目的や意図に応じて、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」「具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」問題については全国、大分県に比べ正答率が高い。

2 具体的な改善方策

○漢字を正しく読むことや書くことの指導の充実

- ・学習した漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、漢字の持つ意味を考えながら文や文章の中で正しく使うような学習の取り入れ

○「話す・聞く」指導の充実

- ・自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意図に応じて、複数の事例を挙げたり、話す速さや間を工夫したりするなど、考えながら話すことができるような学習活動
- ・「友だちの意見を聞きたい」「相談したい」など、児童一人一人が目的をもった交流活動

小学校：算数

1 調査結果の分析

小学校：算数A

- ・領域別、観点別の全ての項目において全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・正答数6問（15問中）以下の下位層の割合が、全国、大分県に比べ低い。

小学校：算数B

- ・全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・領域別において、「数と計算」「数量関係」が全国、大分県の平均正答率を上回っているが、「図形」について課題がある。
- ・観点別の全ての項目で全国、大分県の平均正答率を上回っている。

2 具体的な改善方策

- つまずきを次年度に持ち越さない補充学習の継続
- 中低学力層の活用力をあげるための指導の工夫
 - ・提示する問題の工夫（不必要な情報の挿入等）
 - ・見つけたきまりが成り立つ理由を説明したり、具体的な場面でも成り立つか考えたりする学習活動の充実
- 数学的な考え方を高める指導の充実
 - ・日常生活の問題解決のために、算数が役に立っていくことが実感できるような課題の設定
 - ・目的に応じて資料を集めて分類整理したり、表やグラフなどに分かりやすく表現したり、特徴を調べたり、読み取ったりする活動の設定

中学校：国語

1 調査結果の分析

中学校：国語A

- ・平均正答率は全国を上回っている。
- ・観点別の「言語についての知識・理解・技能」以外は、全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・正答数26問（32問中）以上の上位層の割合は、全国、大分県に比べて高い。
- ・正答数12問（32問中）以下の下位層の割合が、全国、大分県に比べて高い。

中学校：国語B

- ・全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・領域別では「書くこと」以外で、全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・観点別では、「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」で、全国、大分県の平均正答率を下回っている。

2 具体的な改善方策

- 伝える相手を意識した「書くこと」の指導
 - ・伝えたい事柄や意見を明確にし、文章の構成を意識したり、伝えたい事柄にふさわしい言葉を選択したりして書くとともに、それらの効果や工夫について考えを述べ合う学習活動の充実
- 交流活動の充実
 - ・ペアやグループでの交流活動を通して、自分のものの見方や考え方を広くするような課題の設定
- 言語活動の充実
 - ・1つの資料だけでなく、複数の資料の内容を吟味し、内容の真偽や適否を見極めたり、必要な情報を適切に読み取ったりする活動の設定
 - ・得た情報を適切に関連付けたり、再構成したりするような言語活動の設定

中学校：数学

1 調査結果の分析

中学校：数学A

- ・ 全国の平均正答率を下回っている。
- ・ 領域別の「関数」は、全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・ 観点別では、両項目とも全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・ 正答数29問（36問中）以上の上位層の割合は、全国、大分県に比べて低い。
- ・ 正答数14問（36問中）以下の下位層の割合が、全国、大分県に比べて低い。

中学校：数学B

- ・ 全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・ 領域別では、「数と式」において全国、大分県の平均正答率を上回っている。
- ・ 観点別では、「数学的な見方や考え方」「数量や図形などについての知識・理解」において、全国、大分県の平均正答率を下回っている。
- ・ 記述式の正答率が、全国、大分県を大きく下回っている。
- ・ 正答数12問（15問中）以上の上位層の割合は、全国、大分県に比べて低い。
- ・ 正答数6問（15問中）以下の下位層の割合が、全国、大分県に比べて高い。

2 具体的な改善方策

- 基礎的内容の定着
 - ・ 授業と連動した課題の提示
 - ・ 朝自習の時間や家庭学習において、既習の内容を単元・学年をこえてランダムに出題
 - ・ 習熟度別指導による個に応じた指導
- 問題解決的な学習の充実
 - ・ 数量の関係や法則などを事象に即して解釈し、言葉や数、式、図、表やグラフを用いて自分の考えを表現したり、説明したりする活動の設定
- 数学的な考え方を高める指導の充実
 - ・ 実生活における問題を、数学を活用して解決できるような課題の設定
 - ・ 与えられた情報から必要な情報を選択し、事象を的確に読み取る活動の設定

【 津 久 見 市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

○基本的な生活習慣

- ・朝食の摂取や就寝・起床時間については概ね全国平均と同等。
- ・テレビ等の視聴時間については、平日2時間以上の児童の割合は68.5%で全国、県平均に比べ10P以上高い。
- ・ゲームについては、2時間以上使用する児童の割合は全国平均と同等だが、1時間以上2時間以内の割合は30.8%と全国平均に比べ6P高い。
- ・携帯電話やスマートフォンでの通話やメールについては、30分以上の使用の割合が41.1%と全国平均に比べ10P近く高い。使用のルールをだいたい守っている割合は50%で全国平均とほぼ同等。

○学習習慣

- ・平日の学習時間は、1時間以上の割合が74.0%と全国平均より10P程度高いが、授業の予習・復習をしていると答えた児童の割合（予習24.7%、復習36.3%）は、全国平均より15P以上低い。

○学級、学校生活

- ・学校生活への満足度は、全国平均に比べ低く、特に学校に行くのは楽しい、と感じている児童は72.6%で全国平均よりも13.7P低い。
- ・教師に関する質問事項の、分かるまで教えてくれるという点については全国平均と大きく変わりはないが、よいところを認めてくれるかという点については73.9%で全国平均の86.0%を大きく下回っている。

○自尊感情、規範意識

- ・自尊感情は全国平均よりも約4P低い（74.0%）が、規範意識については概ね全国平均と同等（91.8%）。

○授業改善

- ・課題解決的な授業への取組は76.7%と全国平均並み。
- ・授業の中で目標が示されていたか（77.4%）、振り返る活動が行われていたか（66.4%）については、全国平均に比べ10P低い。

生徒質問紙

○基本的生活習慣

- ・朝食の摂取や就寝・起床時間については概ね全国平均と同等。
- ・テレビ等の視聴時間については、平日2時間以上の生徒の割合が62.6%と全国、県平均に比べ13P以上高い。
- ・ゲームについては、2時間以上使用する生徒の割合は全国平均と同等。
- ・携帯電話やスマートフォンでの通話やメールの使用について、2時間以上使用している割合は全国平均と同等(46.5%)。

○学習習慣

- ・平日の学習時間は、1時間以上2時間以内と答えた割合が一番高く(48.6%)、2時間以上の割合は30.6%で、全国平均より10P以上、県平均よりは30P以上低い。
- ・休日の学習時間は、1時間以上2時間以内と答えた割合が一番高く(41.7%)、2時間以上の割合は12.3%と全国平均より10P以上、県平均よりは20P以上低い。
- ・授業の予習をしている生徒の割合は18.7%で全国平均より10P以上低いが、復習をしている生徒の割合は60.4%と全国平均より10P以上高い。

○学級、学校生活

- ・学校生活への満足度は全国平均と同等で、特に友だちに会うのは楽しいと答える生徒は93.1%と高い割合を占めている。
- ・教師への信頼が高く、特によいところを認めてくれるかという点については86.1%で全国平均を6P上回っている。

○自尊感情、規範意識

- ・自尊感情は全国平均よりも約7P低い(63.2%)が、規範意識については概ね全国平均と同等(93.0%)。

○授業改善

- ・授業の中での目標の提示(94.4%)、振り返る活動(79.2%)については、全国平均よりも10P近く高い。
- ・自分の考えを発表する機会や生徒間での話し合う活動については、全国平均と同等だが、自分の考えがうまく伝わるように工夫したかという点については10P近く全国平均よりも低い。

2 津久見市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

◇基本的な生活習慣の徹底

- ・「つくみっこ子みんなで守ろう！」（「早寝・早起き・朝ご飯」「あいさつ」「通信機器の使い方『つくみっ子を守る10か条』」）の周知のために、年度当初に全家庭に向けポスター配付、PTAでの広報等、学校、保護者、地域と連携

◇学習習慣の定着

- ・「家庭学習のすすめ」等の活用と、保護者との連携の推進
- ・家庭学習の内容の検討（授業と連動した家庭学習の推進）

◇学級、学校生活

- ・hyper-QU（年2回）を活用した、学び合い・支え合う学級集団づくり
- ・児童生徒一人一人のよさや可能性を見つけ、児童に伝える教師の姿勢づくり

◇自尊感情、規範意識

- ・児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ、適切に評価する取り組みの推進
- ・道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通して豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育の一層の充実

◇授業改善

- ・小学校の授業における目標、振り返りの提示の徹底
- ・考えを出し合う「学び合い」のさらなる充実
- ・「新大分スタンダード」に基づいた授業の一層の充実
- ・学び残しをつくらないための補充学習の徹底

【 津 久 見 市 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

- ・学習規律については、各小学校共通認識のもと徹底した取り組みがなされている。
- ・国語・算数ともに各学校で補充学習を実施している。
- ・ICTを活用した授業については、週1回以上取り組んでいる学校がある一方、学期に1回以上しか実施できていない学校が多い。
- ・校区の中学校との授業研究は概ね実施されているが、教育目標の共有や教育課程の接続などの教育課程に関する共通の取り組みは行われていない。

中学校：学校質問紙

- ・学習規律については、各中学校共通認識のもと徹底した取り組みがなされている。
- ・授業の中で目標を示したり、学習を振り返ったりする活動が計画的に取り入れられている。
- ・総合的な学習の時間に限らず、他の授業において生徒自らが課題を設定し、その課題解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの取り組みが不十分である。
- ・授業において、言語活動を適切に位置づけ、発言や活動の時間を確保することを意識した取り組みがなされているが、資料を使って発表する取り組みについては十分とは言えない。

2 津久見市の学校質問紙調査の結果をふまえて

- ◇付けたい力を明確にした「めあて」の設定と、学びの成果を実感し、次の時間への意欲や問題意識につなげる「振り返り」の徹底
- ◇個に応じたきめ細かな指導の充実（TT指導・少人数指導・習熟度別指導・個別補充指導）
- ◇優れた授業実践に学び、授業改善につなげるための「学力向上支援教員等の公開授業」「授業視察」への参加の推進
- ◇中学校における、合同研修会や教科部会の実施